

慶應言語学コロキウム

【生成文法の哲学的意義 4】

人間精神の生物学的・社会学的側面 —言語研究を中心に—

講師：阿部 潤 氏（元東北学院大学文学部教授）

日時：2016年12月10日（土）・11日（日）13:00-18:30

会場：慶應義塾大学三田キャンパス北館3階 大会議室

参加費無料 申込不要

本セミナーでは、Chomsky の *What Kind of Creatures Are We?* (2015) 等を取り上げることによって、人間の精神が関わる生物学的・社会学的側面を言語を中心に考察する。チョムスキーが人間精神の本性を研究する上で最適と考える言語研究は、デカルト派言語学の「言語は思考の反映である」とする立場を踏襲し、「言語の創造性」をその観察の出発点とするが、人間の言語能力を一生物器官としての「言語器官」と見なし、その特性を純粋に自然科学的手法を用いて、研究しようとするものである。その研究成果はデカルト派言語学者の哲学的知見をはるかに超え、言語器官に内在する抽象的原理やメカニズムを詳らかにしようとしている。最近のミニマリスト・プログラムの枠組みにおいては、この言語器官の進化にまで考察が及び、「完璧な言語システムが極めて突然創発した」との考えの下、言語に対する新たな生物学的アプローチが模索されている。チョムスキーが人間を社会の側から考察する場合には、言語研究は基本的にその射程外に置かれ、話題は政治の話へと移る。本セミナーでは、言語研究の考察を中心にすえるが、チョムスキーが当該の本でも論じている古典的自由主義とは区別された「新自由主義」(Neoliberalism) に対する批判を多少取り上げてみたい。

※ *What Kind of Creatures Are We?* (Columbia University Press 2015) を持参することをお勧めする

主催：慶應義塾大学言語文化研究所

協力：慶應義塾大学次世代研究プロジェクトB

〈お問い合わせ先〉

〒108-8345 港区三田 2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所

電話：03-5427-1595（事務室直通）メール：genbu@icl.keio.ac.jp

<http://www.icl.keio.ac.jp>